

# 気仙沼 本吉エリア

気仙沼市・南三陸町



気仙沼漁港(1年後)

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。死者・行方不明者数は県内の約20%となる2,000人を超え、住家被害では、全壊・半壊合わせて14,000棟以上あるうち、全壊の割合が80%を超えるなど、壊滅的な被害を受けました。このような状況の中、気仙沼市では生鮮カツオの水揚げが15年連続で日本一を達成し、南三陸町では福興市が盛況を博すなど、復興の兆しも出始めています。「復興道路」と位置付けられた三陸縦貫自動車道の整備促進の決定や大島と本土を結ぶ大島架橋の事業着手式が行われるなど復興への確かな一歩を踏み出しました。一方で、約20,000人の被災者が住み慣れない応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅も含む。以下同じ）での生活を余儀なくされ、約193万トンの災害廃棄物処理の進捗状況は2%に満たず復興の妨げとなっています。



震災後に造られた大型漁船のお披露目式



鹿折唐桑駅周辺

## 気仙沼・本吉エリアの被害状況

[平成24年3月11日現在]

	地域合計	県内合計
死者	1,597人	9,544人
行方不明者	604人	1,688人
全壊	11,625棟	84,728棟
半壊	2,721棟	147,156棟

## 応急仮設住宅入居者数

[平成24年3月2日現在]

応急仮設住宅	14,094人
民間賃貸借上住宅	6,085人
計	20,179人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

## 災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

[平成24年3月5日現在]

がれき推計量(千t)	1,927
処理・処分量計(千t)	35
処理・処分割合	1.8%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月15日

## 置くだけで合格？南三陸復興シンボル「オクトパス君」(南三陸町入谷)



大きな津波被害を受けた南三陸町に、復興のシンボルが誕生しました。「ゆめ多幸鎮オクトパス君」、オクトパス(置くとパス=合格)と受験合格の縁起を担いでいます。震災直後からボランティアに入っている大学生たちの尽力もあり、再開にこぎつけました。廃校予定となっていた入谷中学校を工房として借り、スタッフ1人1人が、東北復興の願いを込めて丹念に製作しています。今や、海外メディアに取り上げられるほどの人気です。

☎ 南三陸復興ダコの会 0226-46-5153

2011年11月20日

## 復活!!小ヶ汐(こがしお)太鼓

(気仙沼市二ノ浜)

浦島小学校は震災で児童数が激減。学習発表会さえ開催が危ぶまれましたが、全国の支援で地元の伝統太鼓を復活させました。子どもたちによる「小ヶ汐太鼓」が、全国への感謝と地域の復興の狼煙として鳴り響きました。



2011年11月28日

## お得意様が戻ってくるたびに元になります

(気仙沼市三日町)

あの日、支店は壊滅。本店の15m先まで津波が押し寄せた時も、無我夢中で従業員の安全ばかりを考えていました。「解雇した従業員を1日も早く再雇用したい!」と頑張る笑顔が、水産都市・気仙沼の元気に見えました。



乾物店大菊の吉田さん

2011年11月28日

## コロちゃんコロケ! 揚げたてです~

(気仙沼市三日町)

「おいしかったよ」と足を運んでくださるお客様が励みです。今は商店街がバラバラになっていますが、いつかまた街を復活させて気仙沼の復興の力になり、気仙沼全体を盛り上げていきたいと考えています。



元気で明るい笑顔の坂本さん

2011年12月2日

## 3日間の生き地獄を生きて帰ってきたんだから

(気仙沼市三ノ浜)



2012年1月18日

## 島おとめになりませんか?

(気仙沼市大島)



「年齢は問いません。女性なら誰でも~」。観光PR事業「島おとめ」が始まりました。大島観光協会の事務所で「島おとめカード」にスタンプを3個押ししてもらっただけで、あなたも島おとめ! 椿の花は似合うかしら~?

☎ 気仙沼大島観光協会 0226-28-3000

2012年1月5日

## 気仙沼に「龍」現る!

(気仙沼市岩井崎)

気仙沼に今年の干支「龍」が現れました。リアス式海岸の名所「岩井崎」に降臨しました。昇り龍の如し勢いで「復興!」昨年逆境にもめげず県内の魚市場で鰹の水揚げ1位を守り抜いた、気仙沼の底力。今年も力強く進んでいきます! 気仙沼の力強い応援団がこの「龍」。夕日の時には、大きな波と砕ける波を従え、真っ赤な光を背負います。新春の海に降臨した「龍」。さあ~元気ががんばろう、気仙沼! 気仙沼が大好きです!



## 仮設商店街は地域の情報交換の場所に

(南三陸町)

12月13日、南三陸町歌津伊里前地区に伊里前福幸商店街が洋服屋さん・八百屋さんなど7店舗でオープンしました。「今、地域の商店街に求められているのは、話せる場所。大型店にはない、「人」のつながりの場所として、元気な商店街・元気な町を復興させていきたいです」と商店街の高橋会長。



伊里前福幸商店街

一方、志津川地区では南三陸志津川福興名店街が2月25日に30店舗でオープン。オープン祝いには、お餅つき。「負けるな東北! 負けるな南三陸!」そんな掛け声も心にしみました。



南三陸志津川福興名店街

2012年1月20日朝、気仙沼魚市場に勇ましい「軍艦マーチ」が流れました。色とりどりの大漁旗を掲げさせた勇壮な「第58大伸丸」は、カジキやサメなどの漁を行う19㍎の大目流し網漁船。大勢の市場関係者や漁師仲間さんたちが集まって祝福し、報道関係者が三浦組合長を囲んでいました。船にはたくさんの方が乗り込み黒山の人だかりです。気仙沼の漁業の大きな1歩~! おいしいお魚をたくさん獲ってくださいね~!

2012年1月13日

## 【短歌寄稿】

## 柞(ははそ)の森

(気仙沼市久保)



気仙沼の漁民による広葉樹林植林活動の有名なキャッチフレーズ「森は海の恋人」は、気仙沼在住の歌人、熊谷龍子さんの歌集の題にちなむもの。その熊谷さんが、ココロプレスのために歌を選んでくださいました。

早春の柞の森は  
いま起きたばかりの森は  
優しさをみす

2012年1月20日

## 勇壮に! 新船出港~

(気仙沼市)

2012年1月20日朝、気仙沼魚市場に勇ましい「軍艦マーチ」が流れました。色とりどりの大漁旗を掲げさせた勇壮な「第58大伸丸」は、カジキやサメなどの漁を行う19㍎の大目流し網漁船。大勢の市場関係者や漁師仲間さんたちが集まって祝福し、報道関係者が三浦組合長を囲んでいました。船にはたくさんの方が乗り込み黒山の人だかりです。気仙沼の漁業の大きな1歩~! おいしいお魚をたくさん獲ってくださいね~!



2011年12月7日  
今年もあわび祭りを開催します！

(気仙沼市本吉町)

「震災の後、あまり魚が獲れないんですよ。直売所の店も3割くらいに減りました。道の駅は長距離運転のオアシス。早く復活させたい、地域を元気にしたい」と駅長の米倉さんは仮設の駅舎で奮闘していました。



道の駅大谷海岸にて

2011年12月6日  
まるでCDを聞いているようでした。

(気仙沼市鹿折)

文科省の支援により鹿折小学校で開かれた、名古屋セントラルオーケストラの演奏会。夏休みから練習を重ねてきた6年生が「かさこじぞう」をオーケストラと競演。演奏と子どもたちの朗読がステキに響き合いました。



2011年12月28日  
石臼でもちつき

(気仙沼市八瀬)



石臼「べったん」お餅をべったん。雪が降る静かな山間部の軒先にはもうすぐ正月の佇まいがありました。

2012年1月15日  
波板の虎舞

(気仙沼市浪板)

2012年1月15日。浪板虎舞が、気仙沼市浪板地区の飯網神社に今年初めて奉納されました。地元の皆さんでつくる「浪板虎舞保存会」は、震災の後、横浜など各地で勇壮な虎舞を披露してきました。今年は地域そして気仙沼の復興の願いを込めての奉納です。この勇壮な虎舞が今年1年の災いを除けて家族みんなが健康で、地域が早く復興していくように、そして平穏な1年を過ごせるように祈ってきました。



2011年12月14日  
一歩！一歩！再海（さいかい）へ

(気仙沼市浪板)



「この壁に油の痕があるから、津波はこの高さを超えたんだと思うよ」。船を造船所に引き上げるためのレールも津波によって海の中で曲がってしまいました。でも、1日でも早く漁師さんたちに仕事をしてほしいから、迷うことなく再建に取り掛かりました。「一歩！一歩！再海！」「将来にわたって、沿岸漁業を営む小型漁船の漁師のみなさんが何でも相談に来てもらえるような造船所になりたいです」鈴木さんの熱い思いがありました。

2011年12月14日  
生きていたことが奇跡なんだよ

(気仙沼市田中前)



その一瞬の思い出を記録しておく写真の大切さを教えられました。「再開してくれてありがとう、そんな言葉をたくさんもらったよ。どんなに励まされたか。ありがたいね」その言葉の優しさで強さを元気をもらいました。

2011年12月28日  
炭焼きと炭すご

(気仙沼市細尾)



「炭すご」とは木炭を納めるための袋。土の釜の中で10日ほどかけてじっくり焼いた炭が15kgほど入ります。気仙沼の自然の恵みを気仙沼の自然の中で作られたもので包む——究極のエコでしょうか？

2011年12月2日  
早く農作業がしたいです。おいしい野菜や米を作りたいです。

(気仙沼市鹿折)

漁業に比べて農業への支援は遅く、農機具を失ってもなかなか支援が来ない。風評被害、TPP、一次産業の高齢化・後継者不足。それでも「気仙沼の復興！子供たちの明るい未来。農業の復興」を願って働いていました。



2012年1月18日  
海にまた瓶球の筏が浮かんで海が復活していきますように

(気仙沼市大島)



2011年12月15日  
お蚕さまの宝物

(南三陸町入谷)

江戸時代から養蚕が盛んだった入谷地区は山間部のため津波の被害をまぬがれました。「わあ～懐かしい・・・これも実家があった・・・」。ここシルク館には、30年ほど前まで実家があった風景が残されていました。



2011年12月18日  
森の学校

(気仙沼市塚沢)



気仙沼市の中山間地域にある月立小学校で1年に10回開かれてきた「森の学校」。校庭には雪が積もる季節になって再開です。地元産そば粉100%の二八そば。ソウダカツオとサバ節・煮干で作る出汁。本格的なそばです。

2011年12月21日  
ここから立ち上がろう～復活への希望

(気仙沼市 魚町・南町)

たくさんの店が軒を並べていた町は、あの日津波がみんな壊しました。ここにきて一緒に笑った笑顔・・・ここで話したことすべてがなくなりました。でも・・・人間はどんな苦境からも小さな1歩を踏み出せる生き物です。必ずまた、この場所があつた町並みが戻ってまた・・・笑顔が集えると信じています・・・「私たちの大好きな町 気仙沼。ここから・・・この環境から立ち上がると信じています。」

2012年1月18日  
気仙沼ちゃん～こんにちは

(気仙沼市大島)

気仙沼市出身で、かつて萩本欽一さん（欽ちゃん）のTV番組で一躍有名になった白幡美千子さん。飾らないその人柄はあの時のまま、笑顔いっぱい迎えていただきました。営んでいた民宿は床上まで浸水し、大規模な修繕が必要になりましたが、「いままでゆっくり休んだからね。働けるようになれば・・・また一生懸命働くの」「これからは、楽しくっさ～自分のペースで。そう思ってるの。」その笑顔の中に、「強さ」を感じました。



2012年1月26日  
温かい笑顔が「人」を運んでくれています。

(気仙沼市田中前)



地元の足として多くの人を「笑顔」で運んでいます。いつもそばにある優しい存在です

2011年12月20日  
おへそくきり

(気仙沼市唐桑町)

「おへそく」は「御幣束」。生活のさまざまなことがらを表した切り紙で、気仙沼では昔から神様へのお供え物・祈願として飾られてきて、神社や地域によっても内容はさまざま。おへそくは気仙沼の歴史文化の証人です。



早馬神社の「鶴」。分かりますか？

2011年12月21日  
地元の野菜を中心にまごころも販売中です。

(気仙沼市八日町)

自分たちが作った野菜、くだもの、手作りのお惣菜を真心こめて売っています。震災で変わってしまった町並みの中の「みのり市」はオアシスの存在です。



2012年1月26日  
砂の上にわが恋人の名をかげば

(気仙沼市松崎)

「砂の上にわが恋人の名をかげば波のよせきてかげもとどめず」気仙沼出身の歌人落合直文の歌です。眼下の砂浜に恋心のせつなさを託したのでしょうか？ 今や、世の無常と人間の無力を感じずにはいられない光景です。



煙草館にて

2012年1月26日  
やっとあそこが通れるようになったよ～

(気仙沼市東八幡前)

「船に壊された店の前を走りたくなくて……片付いて何もなくなるまでは遠回りをして今の仮店舗まで通ったよ。辛くて」「家族が揃って暮らせる家がない。せめて2.3年先のビジョンでも見れば……」



自転車販売店を営む小山富男さん

2012年1月30日  
ここから再開！ここからまた

(気仙沼市古町)

「また来たよ～」まるで自分の家にでも帰って来たように入ってくる常連さん。お化粧品をしたり、おしゃれをしたり。そんな震災前の「日常」を1つずつ取り戻すことに、生活に落ち着きに戻ってきます。



みなと薬局にて

2011年12月22日  
一陽来復

(気仙沼市)

今日は冬至。気仙沼では、かぼちゃ粥をいただきます。かぼちゃ、お米、小豆、はっと、好んで雑穀（ヒエやアワ）が入ります。冬場のビタミンとカロチン不足には保存の利くかぼちゃがよかったのかも知れません。



2011年12月23日  
交番は地域の安心！安全の要です。

(気仙沼市鹿折)

「地域の安全を守ります」。2011年12月19日、被災した建物を補修して、鹿折に臨時駐在所が開所しました。住民には本場に待ちに待った存在です。地域の安心の要が戻ってきました。



2011年12月27日  
気仙沼の年末

(気仙沼市田中)



気仙沼の年末・・・お正月に使う魚がいっぱいです。震災で変わってしまった気仙沼のお正月の風景。でもやはり魚は欠かせません



2012年2月3日  
小原木たこちゃん

(気仙沼市小原木)

2011年の7月から始められた、タコのぬいぐるみ作り。全国の皆さんからの支援に対する感謝の気持ちや、被災者が元気で頑張る姿を伝えたいと始められたそうです。タコの足は8本。末広がり縁起が良いので「幸せをつかむ」。失ってもまた生えてくるので、「再生」「復興」の意味が込められています。

2012年2月5日  
感謝！お客様に感謝しています。

(気仙沼市田中前)



感謝！みなさまにまたお会いできる機会をいただけて本当にうれしいです。おいしいお魚を販売しています～早く気仙沼の海のお魚をお届けしたいです